平成28年度　　学校評価（自己評価）報告書　　附属高等学校　　平成29年3月31日

評価項目			自己評価
A 普通教育を行う学校園として	Ⅰ 教育課程	1．教育目標	・新入生に対しては新入生説明会、在校生に対しては全校集会・行事等で、保護者に対しては保護者会等で教育目標を周知させた。 ・スーパーグローバルハイスクール（ＳＧＨ）の目標については、ＳＧＨのパンフレットを作成・配布し、生徒・保護者への周知に努力した。
		2．教育課程の編成	・現行教育課程の意義に則り、適切な運用・実施に努力した。 ・ＳＧＨ指定校として教育内容のさらなる充実に努めた。
		3．年間授業日数・時数	・学校行事全般の意義を考えながら、必要な授業日数・時数の確保に努めた。火曜日の授業を１回他の曜日に振り替え、授業時数を調整した。
		4．教育活動とその成果	・各教科とも適切な教育活動に努めた。特に数学の授業では、3学期に少人数学級編成を行い、成果を上げることができた。
		5．行事	・運営組織に対し適切に指導すると同時に、生徒の自治意識を高めるよう支援した。
		6．進路指導	・定期考査前チューター補習の積極的活用を勧めた結果、参加生徒延べ人数が昨年度の約2倍に増え、学習成果につながった。 ・進路指導に関する情報を定期的に生徒および保護者に提供・発信した。 ・進路指導に関連する資料の改訂と保存を行った。
		7．研究・研修	・ＳＧＨ指定校として３年目の計画に則り、研究開発を推進した。中間評価の結果を受け、今年度までの成果と課題をもとに来年度の計画の実施に向けて見通しを持つことができた。 ・３月のＳＧＨ成果発表会兼公開教育研究会では、生徒のプレゼンテーションおよびグループワークを公開し日頃の成果を発表した。 ・校内研修会を８月、11月、２月に実施した。進路およびＳＧＨのテーマを取り上げ、情報共有・ディスカッション等を行い、新課程を見据えた本校の教育の方向性について議論を重ねた。 ・大学と連携した授業研究等を例年通り進めた。 ・教員研究費を図書費・教材費・出張旅費などに活用した。
		8．帰国・国際教育	・留学・復学に関する手続きを適切に処理した。 ・交流協定を結んでいる台北市立第一女子高級中学の生徒44名、教員３名が５月26日に来校し、全校での歓迎レセプション、授業での交流、台北研修参加予定者との交流会を行った。 ・ＳＧＨの活動の一環として、持続可能な社会の探究Ｉの授業と連携させた２件の海外研修を実施した。 ①生徒５名、教員１名が8/20～8/27にタイ（バンコク）で行われたイオン１％クラブ主催アジアユースリーダーズに参加した。 ②生徒30名、教員３名が10/19～10/22に台湾（台北）を訪問し、台北市立第一女子高級中学との交流を中心とした研修を行った。 ・つくばサイエンスエッジ2016で日本語ポスターセッション１位となった３年生４名が、7/23～7/26にグローバル・リンク・シンガポール（シンガポール）でポスター発表を行った。 ・ジャパンソサエティより7/11～7/15にアメリカ（シカゴ）からの留学生を受け入れた。 ・東京工業大学とタイ王国のチュラーロンコーン大学共催の科学教育プログラム「BEST」に生徒23名が参加し、12/26にタイの女子校 Mater Dei 校とネット回線接続同時授業を実施した。
		9．自治（会）活動の指導	・自主自律の精神を育成するという観点から、自治組織に対する適切な指導・支援を行った。 ・自治会会計について、適切な予算編成、執行、決算、監査がなされるよう、指導・支援を行った。
		その他	・東京大学安田講堂で9/7に開かれた読売新聞社主催「ノーベル賞受賞者を囲むフォーラム　次世代へのメッセージ」に本校生徒が招待され、２年生全員が「新しい科学者像」をテーマとする江崎玲於奈氏と山中伸弥氏の基調講演・パネルディスカッションに参加した。
	Ⅱ 学校運営	1．経営・組織	・学校経営計画を立案し、重点目標を決定し、学校評価を円滑に行った。 ・企画運営委員会を17回（予定）開催し、運営体制のあり方や業務内容、組織の見直しを行い、円滑な学校運営に努めた。 ・ＰＴＡ、教育後援会、同窓会等と連携して教育環境を整えることに努力した。
		2．出納・経理	・予算委員会・副校長・総務部を中心に、校費・寄付金（運営基金）・諸費用などの予算執行を適切に進めた。 ・ＳＧＨ予算を実際の研究開発に合わせて変更しつつ、効果的に運用した。
		3．施設・設備	・営繕要求の提出機会があり、体育館大扉の網戸設置をはじめとする11項目を営繕要求書として大学に提出した。 ・校庭および体育館の改修が実施された。 ・130周年記念事業の一部として、生徒用下駄箱と顕微鏡（生物）を更新した。 ・教育後援会の協力により、体育館用製氷機の新設などを行った。
		4．健康	・学校保健安全計画に基づき、生徒の健康の保持・増進ならびに安全教育に努めた。 ・生活会議においては教員全体の情報共有と共通理解をはかり、カウンセラーや担任団との連携を取りつつ、個々の生徒に対する健康相談および支援を行った。また教科を通して、睡眠を中心に生活習慣と心の健康について考える指導を行った。
		5．安全	・減災の観点から、大学と連携して安全管理体制を見直し、その充実に努めた。 ・体育館と校舎の窓ガラスに飛散防止フィルムを貼り、破片落下による二次災害防止に努めた。 ・防災訓練を適切に実施するとともに、防災設備を確認し、防災用品の防災倉庫への機能的な配置を検討した。 ・「東京防災」および「お茶の水女子大学防災教育テキスト」を活用して、安全管理に関する指導を適切に行った。
		6．情報	・校内ネットワークの整備を進め、安定的な運用に努めた。 ・大学と連携して情報セキュリティに係る整備を進めた。 ・大学の新しいホームページへの移行が完了した。
		7．開かれた学校	・大学のホームページ改修にともない、高校のホームページも大学のホームページ上に移行するとともに、スマートフォン用サイトも新規に作成した。 ・46件(1/23現在)の活動報告を更新するなど、ホームページを効果的に運用した。 ・６月と９月に学校説明会を開催した。第２回は輝鏡祭と同時開催として集客を図った。（参加者数－第１回： 230組 389名、第２回： 277組　527名） ・６月と11月に保護者授業参観を実施した。(参観者数：６月100名 11月67名) ・学校評議員会および学校関係者評価委員会６月と２月に開催し、学校運営および学校評価について有益な助言を得た。 ・８月に第20回中学生向け理数一日体験授業を実施した。６講座を開講し、73名の中学生が参加した。
		8．入学検定	・入学検定を公正・適切に実施するよう努力し、実施した。 ・入試問題の作成においては、作成日程を見直し、チェック体制も強化した。
		9．保護者との連携	・保護者と学校間の連絡を適切に行い、意志の疎通を図った。 ・ＰＴＡ活動の効率化を図った。 ・ＰＴＡと教育後援会の役員懇談会を開催し、連携を図った。
		10．学年活動	１学年 ・高校生としての自覚を持ち、よい生活習慣・学習習慣を確立できるよう指導した。 ・学校行事や委員会・部活動を通して自主自律の精神を学び、他者と協働できる態度を身につけるよう支援した。 ・学習のガイダンスや、テストを活用した復習の在り方の指導を計画的に行い、学習意欲の向上と基礎学力の定着を図った。 ・卒業生の話を聞く会やお茶大キャリアガイダンスを通じて、自分の将来像を考える機会を提供し、進路選択の可能性を広げられるよう支援した。 ２学年 ・各行事、部活、委員会等において、生徒が積極的なリーダーシップを発揮し、学校の中心的存在として活躍できるよう働きかけた。特に委員会の取り組みにおいて、十分な議論をし質的な向上を目指す姿勢の育成に結びつけることができた。 ・学習・進路指導では、学力テストを複数回実施することで学習到達度を確認し、学力の定着を図ったほか、多くの卒業生を招いての進路講演会や外部講師による講演会を開催し、さまざまなアプローチで進路やキャリアについて考えさせる場面を提供した。 ３学年 ・面談や学年LHR等の機会を活用しながら、生徒の個性と能力に合わせ、自己実現に向けて計画的かつ主体的に進路選択ができるよう支援した。 ・生徒一人一人が、これまで学んできた内容をもとに自主的かつ積極的に学習に取り組み、３年間の学習の完成を目指せるよう指導した。 ・行事等さまざまな活動場面において、最高学年にふさわしい態度や振る舞いができるよう支援した。
		その他	

Ｂ大学の附属校園として	Ⅰ大学との連携	１．連携研究	・大学および附属校園との連携研究を適切に行うよう努力した。 ・大学関係の研究調査依頼が１件あり、調査に協力した。 ・高大連携実施委員会が６回開催され、高大連携特別教育プログラムの実施・運営に協力した。 ・各教養基礎教科は大学教員とのカリキュラム研究を行った。 ・大学の公開授業をのべ61名の生徒が受講した。 ・「選択基礎」を２名が受講し、特別入試で２名がお茶の水女子大学に進学することになった。 ・学校教育研究部を中核とする５附属校園間の連携研究に11名が参加し、研究に寄与した。 ・学校教育研究部の協力の下、附属高校生向けキャリアガイダンスが全学部で実施された。 ・大学のサマープログラム（英語）に生徒のべ35名が参加するなど、グローバル人材育成推進本部と連携し、グローバル女性人材の育成に取り組んだ。 ・大学院高度教育研究副専攻プログラムでは、数学科１名を受け入れ、研究に協力した。 ・東京工業大学サマーチャレンジに３年生10名が参加した。特別選抜には３名が合格し、さきがけ教育を受講した。また、12月にはウィンターレクチャーを実施し、１，２年生全員および３年生希望者が受講した。 ・東京工業大学とタイ王国のチュラーロンコーン大学共催の大学生向け国際交流プログラムに協力し、本校教員が日本の科学教育の課題についての講義を行った。また、同プログラムの中で開発された高校生向けの科学教育プログラム「BEST」に本校生徒23名が参加した。
		２．授業交流	・大学や附属学校園との授業交流や授業公開を行うよう努力した。 ・教養基礎の国語・数学・英語、グローバル地理、および総合的な学習の時間で、大学の教員による授業を実施した。
		３．教育実習	・前期９名、後期32名の教育実習生を受け入れ、教育実習および事前・事後指導を通じて、教科指導の専門性や教員としての資質・能力を向上させるべく指導に努めた。 ・文化祭や学校説明会の運営補助などを通して、登壇実習以外の教員の職務を経験させ、実習をより有意義なものとした。 ・教育実習専門部会との連携を密にし、実習が有意義に行われるよう指導に努めた。 ・教職実践演習の一環としての11月に授業参観を実施した（参観学生は50名）。
		４．専門委員会	・各専門委員会はその目的に沿って適切に活動した。 ・附属学校園連絡進学ワーキンググループ、中高連絡進学検討会で連絡進学のあり方についても検討を行った。
		５．大学の講義担当	・６教科７名の教員が教科教育法の授業を担当し、高校での授業見学も含めて、その効果が上がるように実施した。 ・教職実践演習を含む教科教育法以外の授業（３科目）を３名の教員が担当した。
		６．インターンシップ	（今年度なし）
		その他	・日本で最初のタナーレクチャーが5/18に大学で開催され、２，３年生全員が受賞講演者キャロル・ブラック氏、スペシャルゲスト遠山敦子氏の講演を聞く機会を得た。 ・探究Ｉの授業や海外研修の事前学習にお茶の水女子大学の留学生を招くなど、留学生との交流機会を設けた。
	Ⅱ社会貢献	１．授業参観 研修生の受け入れ	・外部からの授業参観・学校訪問等を７件受け入れた。
		２．公開教育研究会開催	・ＳＧＨ成果発表会（兼公開教育研究会）を開催し、ＳＧＨの取り組みの成果を社会に発信した。
		３．初任者研修・現職研修	（2016年度該当なし）
		４．途上国支援	（2016年度該当なし）
		５．出版活動	・研究紀要を適切な内容で適切な時期に発行し、お茶の水女子大学教育・研究成果コレクションTeaPotへ掲載した。 ・ＳＧＨ指定校として、報告書、生徒論文集および英字新聞を作成した。
		６．各種研究会への協力	・講師等派遣依頼が13件あった。 ・学内外の研究会等に積極的に参加した。
		その他	・３月にＳＧＨ成果発表会を実施し、１年間の探究活動の成果を発表した。 ・ジャパンソサエティより7/11～7/15にアメリカからの留学生１名を受け入れた。

2016（平成28）年度 学校評価（自己評価）重点目標まとめ

１．研究・研修（A－Ⅰ－7）

・SGH指定校（3年目）として研究開発に取り組む。SGH成果発表会（兼公開教育研究会）を開催し、その成果を教育実践に活かす。

⇒ SGH3年目の中間評価では、「これまでの努力を継続することによって、研究開発のねらいの達成が可能と判断される。」との評価を得ることができた。

3月の成果発表会兼公開教育研究会では、生徒のプレゼンテーションおよびグループワークを公開し、研究開発の成果を発表した。

２．帰国・国際教育（A－Ⅰ－8）

・SGHの活動の一環として、台北研修を行う。 ・イオン1％クラブ主催のアジア・ユースリーダーズのプログラムに参加し、バンコクでの研修を行う。

⇒ ・SGHの活動の一環として、「持続可能な社会の探究Ⅰ」と連携させた2件の海外研修を実施した。今年度はさらに2件の海外研修・交流事業を行った。

①今年度は5月に台北市立第一女子高級中学の生徒44名と教師3名が来校し、10月に本校から生徒30名と教師3名が台北一女を訪問し、相互交流が実現した。

②イオン1％クラブ主催アジア・ユースリーダーズは8月にバンコクで行われ、参加した5名の生徒は事前にチュラーロンコーン大学附属の生徒とメールなどを利用して交流し、環境問題などについて情報交換を行った。

③7月に3年生4名がグローバル・リンク・シンガポールに参加してポスター発表を行ったほか、東京工業大学とチュラーロンコーン大学共催の科学教育プログラムに生徒・教師が協力・参加するなど、国際交流の機会が広がった。

３．施設・設備（A－Ⅱ－３）

・校舎・体育館・校庭などの改修・整備を大学に要求し、実現に向けて努める。

⇒ 体育館の大規模改修（屋根・外壁・水回り・大扉への網戸設置など）、グラウンドの全面改修など、改善を必要としていた施設・設備の改修が実施された。

４．安全（A－Ⅱ－５）

・減災の観点から、大学と連携して安全管理体制を見直し、その充実に努める。

⇒ 避難訓練の際に、防災教育テキストを活用した。大学全体の緊急メール連絡網システムの利用において、高校からの発信が可能になった。

５．開かれた学校（A－Ⅱ－７）

・ホームページの効果的な運用に努める。

⇒ 大学のホームページ改修にともない、高校のホームページも大学のホームページ上に移行するとともに、スマートフォン用サイトも新規に作成した。

６．連携研究（B－Ⅰ－1）

・グローバル人材育成推進本部と連携し、グローバル女性人材育成を図る。

⇒ 日本で最初のタナーレクチャーが5/18に大学で開催され、2，3年生全員が受賞講演者キャロル・ブラック氏、スペシャルゲスト遠山敦子氏の講演を聞く機会を得た。